

■内田魯庵 文芸評論家・作家・翻訳家。「罪と罰」「復活」などロシア文学を初めて翻訳、社会小説の秀作を遺した。

うちだろあん

明治維新・・・1868＝ 江戸下谷車坂で、東照宮警固御用人組を勤めていた幕臣の子に生れる。

東京府庁勤務となった父が相場で儲け、

学問のすすめ1872＝ 4歳：旧松前藩下屋敷に移住するも、母が死去、

明治6年政変 1873＝ 5歳：以後、6年間に6人の後妻を迎える父を反面教師として育ち、

西南戦争・・・1877＝ 9歳：

大久保暗殺・1878＝10歳：父が相場に失敗して屋敷を手放した上、地方回りとなって残され、

折合い悪い継母と過ごしながら、小学校卒業後、

明治14年政変1881＝13歳：同人社・立教学校・大学予備門などに学ぶも、何れも中退する一方、

築地居留地で知ったフルベッキに可愛がられて英語を身につけ、遠縁の翻訳家の仕事を手伝ううち、

帝国大学始・1886＝18歳：

幼時からの文学趣味に火がついて、

初の対等条約1888＝20歳：*山田美妙大人の小説で文壇に登場、J.アディソンを学んだ軽妙な風刺を得意とし、
帝国憲法発布1889＝21歳：処女小説「藤の一本」を連載するが、ドストエフスキーの「罪と罰」を読んで衝撃を受け、二葉亭四迷にも心服して、硯友社の遊戯主義を批判し、功利主義的文学観とも激しく戦う。

帝国議会始・1890＝22歳：*国民新聞創刊に際して招かれ、のち、国民之友{太陽}などで論陣を張る。
大本教・・・1892＝24歳：その基本的な文学観は「文学一斑」に示されている。「罪と罰」前半を英訳から翻訳、以後、英・仏・露等の諸作品を翻訳、

日清戦争始・1894＝26歳：

日清戦争終・1895＝27歳：

子規句歌革新1898＝30歳：知識人の内面の空白をリアリズムの手法で描いた「くれの廿八日」で、小説家としての活動も開始、

Bushidou・・・1899＝31歳：評論「文芸小品」、「血ざくら」、

田中正造直訴1901＝33歳：*小説「破垣」がモデル問題から発禁となるが、丸善に迎えられ、{学燈}編集に当たるほか、洋書輸入の顧問として没するまで在籍。。

教科書疑獄・1902＝34歳：政治小説の喚起を呼びかけ、自ら社会各層の矛盾を風刺した「社会百面相」を発表。

日露戦争始・1904＝36歳：

日露戦争終・1905＝37歳：_トルストイ「復活」を翻訳、

アヅキ創刊・1908＝40歳：{図書館雑誌}の編集委員となる。訪ロする二葉亭四迷の送別会発起人代表となる。

伊藤博文暗殺1909＝41歳：二葉亭四迷が死去。丸善が全焼して、改訳中の「罪と罰」の原稿を失う。

韓国併合・・・1910＝42歳：坪内逍遙・池辺三山とともに、「二葉亭四迷全集」を編纂し、追悼会を開く。

明治天皇没・1912＝44歳：

大正政変・・・1913＝45歳：

民本主義・・・1916＝48歳：随筆集「きのふけふ」を刊行。

本格政党内閣1918＝50歳：「トルストイ全集」の共同監修を始める。

原敬首相暗殺1921＝53歳：

水平社結成・1922＝54歳：

治安維持法・1925＝57歳：「きのふけふ」を増補した「思ひ出す人々」をはじめ文壇回顧、人物評伝、随筆などに従事し、

世界恐慌・・・1929＝61歳：「銀座繁盛記」を発表し、生家近くに建った松坂屋のために、「下谷広小路」を*執筆中、脳溢血で倒れ、まもなく没した。